

## 江南市廃棄物減量等推進協議会 平成 27 年度第 3 回会議 会議録(概要)

●日時 平成 28 年 2 月 18 日 (木) 午後 2 時～午後 3 時 40 分

●場所 江南市消防署 3 階 講堂

●出席委員(20 名)

会 長 岩井喜美子	副会長 前 田 幸 男
委 員 青 山 和 子	委 員 尾 関 豊
委 員 川 崎 晴 功	委 員 大 野 順 基
委 員 村 瀬 善 之	委 員 森 稔
委 員 倉 橋 一 範	委 員 楓 健 年
委 員 古 田 一 二 三	委 員 望 月 晴 夫
委 員 長 岡 吉 男	委 員 苅 谷 有 朗
委 員 藤 田 泰 雄	委 員 堀 場 敏 之
委 員 政 木 幸 吉	委 員 黒 岩 弘 子
委 員 立 石 一 郎 (代理人が出席)	
委 員 尾 関 安 巳 (代理人が出席)	

●欠席委員(10 名)

委 員 石 原 豊 基	委 員 土 井 謙 次
委 員 野 田 歩 久 登	委 員 尾 関 順 久
委 員 岩 田 節 明	委 員 阿 部 枝 美 子
委 員 水 野 祐 助	委 員 滝 甚 吉
委 員 桂 田 伸 二	委 員 松 井 淳 司

●事務局

環 境 課 長 石 川 晶 崇  
環 境 課 主 幹 菱 川 秀 之  
環 境 課 副 主 幹 相 京 政 樹  
環 境 課 主 査 牛 尾 和 司  
環 境 課 主 任 長 崎 紘 樹  
環 境 課 書 記 堀 場 大 貴

●会議経過

■平成 27 年度協議会活動報告について

○事務局

廃棄物減量等推進協議会、特別委員会及び環境フェスタ江南実行委員会役員会の活動について報告します。今年度は、廃棄物減量等推進協議会の会議を 3 回、視察研修会を 1 回実施しました。特別委員会は会議を 2 回実施しました。環境フェスタ江南実行委員会役員会は 7 回開催しました。

廃棄物減量等推進協議会の第 1 回会議の終了後には、ごみ減量啓発の活動を実施しました。市内 4 か所のスーパーマーケットで啓発チラシ入りのポケットティッシュ配布を委員の皆さんのご協力のもとに実施いたしました。

廃棄物減量等推進協議会の視察研修会は、1 月 25 日に実施しました。小牧市と岩倉市のごみを処理している小牧岩倉エコルセンターを視察しました。

次に、特別委員会の会議ですが、第 1 回を 10 月 2 日、第 2 回を 2 月 4 日に開催しました。

次に、環境フェスタ江南実行委員会の会議等ですが、11 月 15 日開催の環境フェスタ江南に向けて、役員会を 5 月から 6 回開催し、第 1 回を 5 月 28 日、第 2 回を 6 月 30 日、第 3 回を 7 月 30 日、第 4 回を 8 月 27 日、第 5 回を 9 月 29 日、第 6 回を 11 月 5 日に開催しました。環境フェスタ終了後に第 7 回役員会を 12 月 17 日に開催しました。合計で 7 回開催しました。その他企画打合せを 2 回、出展者説明会を 1 回、消費生活展と健康フェスティバルの実行委員会との合同会議を 1 回開催しました。

■平成 27 年度特別委員会活動報告について

○事務局

今年度の特別委員会の活動について報告します。11 月 7 日に第 1 回会議を開催しました。第 1 回会議では、レジ袋収益寄付事業者の買い物袋削減運動、食品廃棄物リサイクルなどの環境活動について、報告及び意見交換を実施しました。また、一般社団法人愛知県産業廃棄物協会と江南市の間で締結した「災害時における廃棄物の処理等に関する協定」の内容について、報告及び意見交換を実施しました。

2 月 4 日に第 2 回会議を開催しました。第 2 回会議では、平成 27 年 12 月に

実施した事業所訪問及びごみ分別状況調査の結果について、報告及び意見交換を実施しました。また、「事業系ごみ処理の手引き」の内容の解説及び意見交換を実施しました。その他、滋賀県甲賀市の生ごみ堆肥化の取り組みについて、報告及び意見交換を実施しました。

次にレジ袋削減有料化協定を締結した企業の一部から、寄付金等を受けて、それを環境フェスタ江南で活用しておりますが、今年度の収入支出状況について報告します。

平成 27 年度は、収入の部として、前年度繰越金が 364,722 円、株式会社平和堂からの寄付金が 85,000 円、株式会社ヤマナカからの寄付金が 25,278 円、その他利息が 33 円で合計 475,033 円となっています。次に支出の部ですが、環境フェスタ江南への寄付金として 133,000 円支出しております。レジ袋収益寄付金を活用して、環境フェスタ江南では、クイズラリーや紙ヒコーキ大会の景品として、平和堂の商品券やボックスティッシュ、ヤマナカのギフトカードを購入しました。その他、今年度中に株式会社ヤマナカから 8,377 円の寄付金を受ける予定となっております。

次に、今年度に受領した寄付品ですが、ユニー株式会社様から種子、プランター、培地等 146 セット、堆肥 200 袋の 408,828 円相当額の物品を受領しています。寄付品は、市の緑のカーテンチャレンジに関する事業で使わせていただいております。

#### ○会長

先日、テレビ番組でスーパーマーケットから出る食品廃棄物のリサイクルについて紹介されていまして。食品廃棄物を飼料化する事例が紹介されていまして、ラップなどの包装を取り除く面倒な作業を行う必要があるとのことでした。

#### ■環境フェスタ江南 2015 事業報告について

#### ○事務局

環境フェスタ江南 2015 の事業報告について説明させていただきます。

まず、目的ですが、環境問題に対する全市的な取組みを推進し、市民一人ひとりに環境問題についての理解を深めてもらうことを目的として、実施しました。

次に、主催及び後援、並びに協賛ですが、主催は、江南市、環境フェスタ江南実行委員会、後援は江南市廃棄物減量等推進協議会、愛知県でした。協賛は、株式会社愛北リサイクルを始めとする 33 の企業、団体でした。

次に、入場者数ですが、6,000 人ということで発表しております。

次に事業内容のうち、主要なものを報告させていただきます。まず、開催式は文化会館正面玄関、環境表彰式は小ホールで実施しました。次に、「体験・参加型イベント」ですが、クイズラリー、フリーマーケット、紙ヒコーキ大会を開催、小型家電回収コーナーを設置しました。

次に、環境フェスタ江南実行委員会平成 27 年度決算書について説明させていただきます。まず、収入の部ですが、江南市からの委託料が 1,350,000 円、レジ袋有料化収益寄付金が 133,000 円、協力金のフリーマーケット出店料が 8,000 円でした。収入済額の合計は 1,491,000 円でした。次に、支出の部ですが、報酬が 83,000 円、需用費が 372,462 円、役務費が 14,868 円で、使用料及び賃借料が 664,951 円で合計が 1,135,281 円でした。その結果、収入支出差引残額は 355,719 円でした。この残額は 12 月に市へ返納しております。

#### ○委員

資料にチラシの作成枚数と配布枚数の記載がありますが、配布しきれなかったチラシを各区に配布するなど工夫するべきだと思います。

#### ○事務局

紙ヒコーキ大会の関連の来場者が多くなることを予想していましたが、実際にはそれほど増えなかったため、当日のチラシの配布枚数が増えませんでした。

#### ○環境課長

来年度は、チラシの配布枚数について今回の数が必要かどうか検討したいと思います。

#### ○委員

入場者数が 6,000 人というのは当初予想した人数と比べて多かったのか、少なかったのか、どう考えているか教えてください。

会場が余り混雑していなかったと思います。入場者の目標数値を立ててほしかったと思います。子供を持つ母親の環境フェスタに対する関心が薄いよ

うに思いました。

○環境課長

消費生活展の入場者数が 5,000 人だったので、それが目安になると考えていました。合同開催することによって入場者が増えたと考えております。

○副会長

来年度に向けて、入場者を増やす取り組みを考えていきたいと思ひます。

○委員

市民の団体の参加が少なくなっています。行政と関係の深い団体以外の市民の団体の参加が少なくなると、市民とかけ離れた内容の環境フェスタになってしまうと思ひます。市民協働を進めていかなければならないと思ひます。

○会長

環境フェスタは今回から、消費生活展と健康フェスティバルと合同開催になり、場所もすいとびあ江南から市民文化会館に変わりました。今年度の課題の改善策については、来年度の企画段階から検討していくべきだと思ひます。

○事務局

今年度はいくつかの市民団体から辞退の申出があり、市民団体の参加は減りましたが、辞退の理由は、場所が変わったことや他のイベントと開催時期が重なったことでした。市民との協働をおろそかにしているというわけではありません。

○委員

参加した団体から、「開催結果報告書」の提出を求めるべきだと思ひます。

○環境課長

市民団体や企業から提案をいただいた場合は、その内容を環境フェスタ江南実行委員会役員会で検討していくこととなります。来年度に向けて、意見を出していただきたいと思ひます。

■平成 27 年度協議会視察研修会報告について

○事務局

1 月 25 日に小牧市と岩倉市のごみを処理している小牧岩倉衛生組合の小牧岩倉エコルセンターという施設を視察しました。廃棄物減量等推進協議会の

15名の委員の参加がありました。

小牧岩倉衛生組合から説明を頂いた内容について、一部を資料に掲載しておりますが、紹介させていただきます。

小牧岩倉エコルセンターは、平成27年3月に竣工し、4月に稼動した新しい施設です。可燃ごみを処理する「ごみ熔融施設」と粗大ごみ等を処理する「ごみ破碎施設」で構成されています。

「ごみ熔融施設」では、ごみを高温で溶かして処理しているということで、最高で1,800度になるとのことです。熔融炉で処理した後に焼却灰が発生しないため、埋め立て処分量が削減できるということです。

熔融処理した後、再生可能なスラグとメタルという物質が残るということです。スラグは砂のような形状の物質で、メタルは金属の固まりのような物質です。スラグは土木資材として利用され、メタルは建設機械のおもりに再生されるということです。「ごみ熔融施設」では、発生する熱を利用して発電を行っていきまして、施設内で利用するほか、余った電力は中部電力株式会社に売却しているということです。発電する以外に、余熱を近隣の温水プールや福祉センターで活用しているということです。

ごみ熔融施設以外に粗大ごみ等を処理する「ごみ破碎施設」も設置していますが、高速破碎機で破碎した後、鉄類とアルミ類を取り出してリサイクルしているということです。

江南市では、近隣市町と協力して可燃ごみ処理施設を建設するため、地元での説明会を実施するなど準備を始めています。現時点で最も新しい施設ということで、大変参考になる内容だったと思います。

## ■その他

### ○事務局

3月号広報配布時に地区に回覧する「環境情報」というチラシを資料に添付しております。生ごみの排出削減のため、生ごみの水切りの徹底について啓発する内容となっております。その他、1月12日に実施した家庭系可燃ごみ展開検査についても記載しております。家庭系可燃ごみにプラスチック製容器包装や紙類の混入が多くなっていましたので、更なる分別の徹底が必要となっております。

○委員

水切りネットに関する記述が分かりにくいと思います。

○事務局

分かりにくい記述については、今後改善していきたいと思います。

○委員

カラスが好む残飯が可燃ごみとして多量に出されているため、残飯を減らす啓発文を少し掲載したほうがよいと思います。

○委員

以前、生ごみを家庭で堆肥等にリサイクルすることを啓発するため、生ごみ減量指導員制度の創設を提案しましたが、難しいとのことでした。生ごみを地域内でリサイクルする「地産地消」を進めるため、市民に参加を呼びかけたいと考えています。

○会長

1年間、地区の区長の代表として委員を務めていただいた皆さんにはお忙しい中参加いただき、感謝しています。1年間でお気づきの点や地元で困っていることなどをおっしゃっていただきたいと思います。

○委員

1年間、会議に出席していろいろ思うところがあります。委員のみなさんの熱い思いを感じ取ることもできました。ごみを少なくすることができることも学びました。地区に帰って、住民の皆さんに廃棄物減量等推進協議会で学んだことをお伝えするのが私の仕事だと思います。

会議の中で気になったことは、議事進行が滞ることがあった点です。耳の不自由な方にも分かりやすく伝える方法があると思いますので、工夫していただきたいと思います。

環境フェスタには初めて参加しましたが、素晴らしい取り組みだと思いました。委員として参加するだけでなく、市民に伝えることが必要だと感じました。

○委員

廃棄物減量等推進協議会には今年度初めて参加しました。一つだけ気づいたことを申し上げたいと思います。紙ヒコーキ大会等の環境フェスタの催し

の参加者が少ないと思いました。イベントに人を集める方法について今後も継続して考えていただきたいと思います。

○委員

月 2 回の資源ごみの際に、正しく分別されるように指導や声かけを行ってきました。

初めて環境フェスタに参加しました。環境フェスタも催しの内容次第で来場者の人数は多くなることも少なくなることもあると思います。参加してもらえるような催事を考えていく必要があると思います。

○委員

区長として、地区の小学校の公開授業に参加しました。小学校 6 年生が環境問題について自ら発表していました。小学生が地球温暖化やごみの分別について、しっかりと意識していることに感心しました。

先程、事務局から可燃ごみを検査したところ、分別がまだ不十分であるという報告がありました。区の中でもごみ減量を更に進めていくなど、今後もできる限り協力していきたいと思います。

○会長

他に意見はありませんか。

○委員

3月2日に、宮田小学校4年生を対象としたごみ分別学習が実施されますが、宮小支援ボランティアの方と一緒に運営に参加します。校庭でごみを実際に分別するという体験を行う企画で、120名の児童が参加します。実施結果については、新年度の会議で報告します。

— 以上 —